

ICAS2022にて研究成果の報告を行いました

2022年5月29日(日)～6月1日(水)、つくば国際会議場にて開催された、一般社団法人日本鉄鋼協会主催の国際学会「The 7th International Conference on Advanced Steels(ICAS2022)」において下記の研究結果の報告を行いました。

「Estimation of true hardness of as-quenched martensite without auto-tempering」

<研究メンバー>

ネツレン：井戸原修、日山洋平、三阪佳孝、高木節雄

九州大学：土山聡宏(教授)

<概要>

焼入マルテンサイト鋼の硬さは、鋼に含まれる炭素量の増加とともに高くなるが、Ms点が高い低炭素鋼(C<0.4%)では、マルテンサイト変態後に自己焼戻しにより、硬さが低下します。焼戻しの程度はbcc-Fe中の炭素の拡散面積により定量的に評価できるため、炭素量0.6%以下の鋼を用いて、自己焼戻しの影響を受けていない焼入マルテンサイト鋼の真の硬さを推定する方法を提案しました。

*本件に関するお問い合わせ：

研究開発本部

材料技術部

Tel: 0463(55)7853

井戸原修